RE: バース

こんじき†

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
ＲＥ：　バース

【Ｎコード】
Ｎ１６８１Ｖ

【作者名】
こんじき†

【あらすじ】
さまざまな作品とのクロスオーバーを予定（はじめは遊戯王を予定）

予告編

西暦２０ＸＸ年某企業Ｋにて新たなシステムが発表された・・・
世間はそのシステムに期待と好奇のまなざしを寄せていた。
そんなある日Ｋ社はＮ国中の国民からデバッガを募集を始めたのである、当然世間はデバッガの話題でもちきりになったそんな中その話題に乗ることさえもあきらめてしまった青年「遊二郎」のところに１通のメールが届く・・・それが彼の運命を大きく変えた。

彼の運命やいかに！！

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

はじめまして！！こんじきです！！初めての執筆に挑戦したこの自分の処女作はいろいろな世界のクロスオーバーとする予定ですですのでクロスオーバーが嫌いな方はブラウザの戻るボタンかそのままブラウザを閉じてしまってください。

それでは・・・っとその前に処女作なのでかなり文章構成が甘かったり誤字脱字も多いのですがそこらへんはあらかじめご了承お願いします。

プロローグ～終わりの始まり～（前書き）

ここから本編スタートです！！

プロローグ～終わりの始まり～

???「フフフ・・・ついに・・・ついに見つけたぞ！！しかも6人もの適合者を！！」

嵐の中に1人の笑い声が響き渡った

Ｓｉｄｅ　ｅｎｄ

Ｓｉｄｅ　遊二郎

ここはとある山のＫ社が持っている別荘地である。俺は”成美　遊二郎”いまはフリーターをしている。そんな俺がなぜこんな別荘地にいるか説明をしようと思うと話は2週間前まで戻る。

～2週間前～

バイトが終わりいつものようにＰＣの電源を入れた俺はいつものようにネットサーフィンをしながらメールチェックをしていた。最近手持ちの財産がつきかけていたので何か割りのいい次のバイトを探していたときふと1通のメールに目が留まった。

「おめでとうございます！！」

メールの題名はこう書いてあった、スパムかと一瞬思ったがあけてみたいと言う怖いもの見たさの好奇心からそのメールを開いてしまった。

読んでみるとそのメールにはとても面白く興味深い内容が書かれていて、簡潔に言うと「あなたはわがＫ社のＶＲシステムのデバッガーとして選ばれました詳細な情報をお求めになる場合はこのアドレ

スにからメールを送ってください。」ということだった。バイト先でも話題に上がっていたあのＶＲシステムのデバッガーに選ばれると言うことはうれしいのだが少し引っかかるものがある。そこで、少々疑いながらもそのメールアドレスに返信をしてみると、ものの数秒で返答が帰ってきた。
そのメールには「返答をいただきまことにありがとうございます。このデバッガーの件ですが、具体的に期限を1年いただきたいのです報酬としては１５００万を用意いたします場所はＸＸＸ県△△△郡にあるわが社の別荘地です検索していただければ直ぐにわかると思われます。もしよろしければ同意書をよく読み添付してある同意確認書を記入し持参の上来場ください。」と書かれていて１つのＰＤＦファイルが添付されていた。

同意書の内容を要約して書いてみるとこうなった。

・あなたの好きな漫画ゲームの作品に関係するアイテムを1作品につき3点まで持ち込め
・あなたの命については当社は責任を一切負わないができるだけの安全は保障する
・ここで見たり聞いたりした内容を外には漏らすな

と言ったことが3ページにわたってずらずらと書かれていった。
こんなＶＲのデバッグで命を落とすことなんて起こらないだろう。
ただそこで起こったことを話題に上げられないのは少し残念だが・・・
・
そう思い同意確認書にサインをして大荷物を用意しバイトをやめ1年間のデバッグ作業の準備を進めた。

で、今にいたるってわけである。

リゾート地と言っても山の中腹辺りにあるためこの荷物で上るのが少しつらくなってきた。そう考えているうちに指定されたコテージに着いたので鍵を開け中に入ったするとほかのデバッガだと思われる5人と目が合った。

Ｓｉｄｅ　ｅｎｄ　遊二郎

Ｓｉｄｅ　タカハシ

私の名前は思い出せないので自分で”タカハシ”名乗っているなぜ思い出せないのかも思い出せない。ここにいるのはネットカフェで休んでいるとき1通のメールを受け取ったからだ。まあ、そんなことはさておきさっき入ってきた青年を私はどこかで見た覚えがある気がするはっきり思い出せないがそんな気がするのだ。
おっと・・・青年ににらまれてわれに返ったまじまじと見つめてはまずかったな・・・と思っていたら青年が私のもとに歩み寄ってきた。

「あんた・・・俺に何か用か？」

「いや、特にないけど昔あったことがあるような気がしてしまって。」

「俺はそんな記憶はないが・・・気のせいではないか？」

「いやー、そうかそうか。ならじろじろと見つめてしまってすまなかったね。」

「ところで、あんた名前は？」

「わからないんだ・・・でも一応タカハシと名乗っておくよ。」

「そうか、よろしくな。ちなみに俺は成美　遊二郎だ。」

「よろしく！！ところで君も金目当てかい？」

「ああ・・・そうだが、”も”ということはあんたもなのか？」

「いや、私は自分の記憶を手に入れるためなんだ。」

こう言うと目の前の青年は目を大きく見開いて驚いていた。

「すまなかった・・・」

いきなり青年が話しかけてきそう話しかけてきたところで床がエレベーターのように地下に向かって降りていった。

Ｓｉｄｅ　ｅｎｄ　タカハシ

Ｓｉｄｅ　遊二郎

やっと床が止まったと思ったら奥に現れた扉から人が現れた。

「ようこそ！！わが研究所へ私がここの所長だ。ここに集まってもらったのはほかでもないわが社の・・・私の研究成果のＶＲシステムをデバッグ兼体験をしてもらうためだ。それにあたりの同意確認書を提出していただきたいのだがよろしいか？」

そういわれ、俺は同意確認書を提出した。

「よろしい、では皆様ついてきてください。」

・・・・・・・・・・・・・・・

研究室に入るとそこには6個のカプセルがあった。所長曰くコレがデバッグをするVRマシーンなのだそうだ。

「このカプセルは、人間がいろいろな小説や漫画などの作品の世界に介入することができるものだ。ただ、この中での経験は現実世界に繁栄されてしまうと言う状況にある。そこで、君たちには一人1つの作品に入ってもらいどの程度経験を現実世界に持って帰ることができるのかを調べるとともにバグなどが見つかったらそのたびに私たちに報告してほしい。ちなみに時間は1年＝現実の1ヶ月で進んでいくため作品によっては1年以上入っていてもらうことになるかもしれないがその点は自分の選んだ作品なので仕方がないと思ってもらってけっこうだ、なお著しい成果が見えた場合追加報酬も考えているので皆様がんばってデバッグしてほしい・・・何か質問はあるか？」

ここまでの説明はわかったがどうしても腑に落ちない点があった俺は質問をした。

「同意書のほうに書いてある命の危険って具体的にはどういったのがあるのか教えてほしいな。」

「いい質問だが具体的には余り示せない作品ごとにそういった状況は違うからな・・・まあたとえて言うのならNARUTOの世界だと中忍試験の前、我愛羅を挑発しすぎて砂で握りつぶされるとか、ゼロの使い魔の世界なら7万の軍にサイトの変わりに挑んで死亡とかしたとき現実世界にも影響が出る可能性があると言うだけの話し

だ。」

「それはわかった、もうひとつは好きな作品のアイテムを3つもってこさせた理由についてを聞かせてほしい。」

「それについては実際に見てもらったほうがわかりやすいだろうからカプセルの前まで来てほしい。」

カプセルの前まで移動してカプセルを覗き込んでいると所長が説明を始めた。

「このカプセルにはどれも同じつくりであってそれぞれに精神を作品の世界に送り出すために必要なヘッドギア・作品の世界に現実から持っていくアイテムを入れるための引き出し（4次元）・それと感覚をフルダイブさせる必要があるので液体が中を満たすそのときに呼吸と栄養をしっかりと取るために酸素マスクと点滴が備え付けてある。アイテムを持ってこさせたのはその引き出しに入れると作品の中にアイテムを持っていけるからだ。ただ、作品のなかでそのアイテムが本物と同じ機能をするかは見実証なのでそこもレポートを頼む。ちなみに作品の中へは3つまでアイテムを持って入ることができる。」

「ここまで聞いてやめたくなった人はいますか？今ならまだ取り消しすることができますが。」

助手のような人がそう言ったが、この話を聞いても誰も帰ろうとする人はいなかった。

「ではカプセルの中に入ってくれここから先はカプセルの指示に従ってくれでは皆様の幸運を祈ります。」

そういって所長は奥の扉の中に消えていった・・・
取り合えず俺は３つアイテムを引き出しの中に入れて準備を始めた。

Ｓｉｄｅ　ｅｎｄ　遊二郎

Ｓｉｄｅ　タカハシ

今の遊二郎と所長・・・と言うよりあれは”ハカセ”と言ったほうがいいのかな？まあ取りあえずその二人の会話を聞いていても心配になるより私はむしろよけいに行きたくなってしまった。
正直言って私には過去の記憶はないし小説や漫画の中に入れたらいいのになーと思っていたところだった。
世間では自分が誰なのかわからないからまともな職には就けなかったし漫画や小説の世界に入れたらそんな心配もなくなるだろうしいっそ１年と言わずずっと入っていたい気もする。まあそこはおいといて少し遊二郎に話しかけようと近くによっていった。

「遊二郎はどこの世界に行くんだい？」

「俺は遊戯王の世界かな主人公についていけば結構安全そうだし。」

「遊戯王か・・・私はハリー・ポッターの世界に行くかなスリルがあって楽しそうだし、魔法を使ってみたいし。」

「そうか、じゃあまた終わるときに。たぶん俺の方が早く帰ってくるけどな」

「私もなるべく早く帰って着たいけどね。」

「じゃあ、俺はもう行くぜ。」

「私もそろそろ行く・・・またな！！」

そういって私はカプセルのふたを閉じて頭にヘッドギアを装着した瞬間意識が途切れた。

Ｓｉｄｅ　ｅｎｄ　タカハシ

Ｓｉｄｅ　遊二郎

いきなりブラックアウトして意識が途切れたと思ったら電子音が聞こえてきて視界に選択肢が現れた。

Ｑ1あなたはこの世界でなにになりたいですか

1．人間

2．モンスター（精霊）

3．その他

何打この選択肢は？と思いつつ迷わず人間を選んだ。

Ｑ2あなたのこの世界での性別を教えてください

1．男

2．女

3．その他

その他が何なのかわからないが取りあえず男を選んだ。

Q3あなたは概存のキャラですかオリジナルのキャラですか

1．はい

2．いいえ

つまり、原作キャラにもなれるということらしいが俺は自分自身で作品に入りたかったからいいえを選んだ。

Q4あなたの現実での容姿をそのまま使いますか？

1．はい

2．いいえ

ここは迷わずはいだな

Q5開始時のあなたの年齢を教えてください

□

DM世代とも一緒にやりたいけどGX世代にも介入したいな・・・・・

ここは12歳にしとこう

Q6西暦何年開始にしますか？

□

ここは自分の知識では５Ｄｓ終わりが２０２１年だから逆算してＧＸはっと・・・え？最遅くて２００２年十代がそつぎょうだと！？と言うことは１９８４年生まれだと！？と言うことは１９９６年スタートだな。

Ｑ７最後の質問です、あなたが持っていくアイテムはこの３つでよろしいですか？

・デッキケース（中身１デッキ）
・予備カードケース（４０００枚収納中空き容量６０００枚）
・デュエルディスク

どのデッキかは後で確認すればいいとして（もっと入れたはずなのに１デッキとしか認識されてない）
予備カードがどうして通るのか不思議でならないけどいいだろう

それの確認が終わったとき視界に”では幸運を祈ります”と出てきた瞬間視界が真っ白になり意識が途切れた。

Ｓｉｄｅ　ｅｎｄ　遊二郎

プロローグ～終わりの始まり～（後書き）

プロローグが終わりです
最初の???とタカハシはしばらくお休みですが取りあえず
なぜ１２歳かと言うとデュエルアカデミアの中等部を主人公には受
験させようかなと思っています。しばらくは遊戯王ＧＸをやってい
こうと思いますのでよろしくお願いします。
おかしなところあったらよろしくです

第一章中等部編～波乱の試験～（前書き）

前回の予告の通り中等部試験を受けさせてみようと思います

第一章中等部編～波乱の試験～

目が覚めると目の前に爺さんがいた。

「おお起きたかい遊二郎。遊戯！！遊二郎がおきたぞい！！」

「じいちゃんほんと！遊二郎だいじょうぶ？」

いきなり原作組かよ！！しかも察するに遊戯の弟的存在かな？

「ごめん、あなたたちだれ？」

ここはとぼけておいたほうがいいだろうね

「ええ？？遊二郎ボクがわからないの？遊戯だよ兄の。」

予想通りでもここは記憶障害の振りをしてっと

「うう・・・頭がいたいやっぱり思い出せないよ・・・」

「やっぱり昨日の高熱で脳がやられてしまったのかのう？」

「取りあえずお医者様をよぼうかのう」

ってここ病院だったんだ。っと医者が来た

・・・検査中・・・

と言うわけで俺は記憶喪失と言うことで処理されたちなみに遊戯に

は相当心配されたが”大丈夫だ・・問題ない”と伝えておいた。

「取りあえず現状を整理してみるか・・・」

・まず名前は武藤　遊二郎と言うことらしい
・遊戯とは血がつながっておらず孤児院から４歳のころ引き取られたらしい（そのとき一緒に何か荷物も受け取ったらしい）
・バトルシティーからは４年後との事
・バトルシティーでは兄弟ともに健闘していたとの事
・昨日高熱が急に出て意識不明で病院に担ぎ込まれたとの事
・１ヵ月後デュエルアカデミア中等部試験との事

との事だ・・・取りあえず”そんなチートポジション希望してませんから！！！”どちらかと言うと凡骨の弟とか杏の弟とかの方がまだよかったよ・・・

まあ、取りあえず勉強しますか・・・

Ｓｉｄｅ　ｅｎｄ　遊二郎

Ｓｉｄｅ　遊戯

遊二郎が目を覚ましてくれて本当によかった。あの熱が出たときは本当に心配したけど・・・きっとアテムに願い続けたのがよかったのかな？海馬君も柄にもなく「ふん、貴様ら兄弟にはかりがあるからな、今くたばってもらっては困るからな。」とか何とか理由をつけてお見舞いに来てたし。城ノ内君や杏や本田君も着て本当に心配

してたし。みんな最近会ってなくていきなりこんな形での再開だからたいへんだったな城ノ内君は警察学校から急遽外出届けを出して着てくれたみたいだし杏もアメリカのダンススクールから休みで帰ってきてたとこで本田君は大学が忙しい中だったのに無理してきてくれたんだ。でもなつかしい顔がそろっていたから同窓会みたいなことになってたんだみんなが遊二郎を心配してくれてるみたいだし。でも、遊二郎の記憶がなくなってしまったみたいだけど本当に無事でよかった。でも少し心配なのは1ヵ月後の遊二郎のＤＡ入学試験だ。せっかく海馬君が推薦してくれて遊二郎も「俺は、お兄ちゃんやアテムを超えるんだ！！」とかいって張り切ってたのに大丈夫かな？あとで、少し勉強を見てあげよう。ボクも今は大学生なんだしね。あ・・・そうそう獏良君や御伽君からも電話があって二人とも海外からだけど電話してきてくれて本当にうれしかったんだ。御伽君は相変わらずみたいだけど獏良君は本場エジプトで考古学を学ぶためにエジプトに渡ったんだ。この前電話で聞いた話では順調なんだって。エジプトか・・・アテムどうしてるかな・・・

Ｓｉｄｅ　ｅｎｄ　遊戯

1ヵ月後

Ｓｉｄｅ　遊二郎

取りあえずこの1ヶ月一通り問題集と過去問はといてみたけど「何だコレは」と思わず言ってしまいそうになった何がそう思わせたかと言うとまず全部ＫＣ社の製品でしたＫＣ出版って何ぞや（笑）どこぞの少女マンガの出版社を思い出してしまった。ちなみにデュエルアカデミア中等部の試験は国語・算数・理科・社会・実技・体育であった国語は主にカードのテキスト判読と作文で５０分作文の題

材は例年あなたの考えるデュエルキングに必要な素質はなにか、と言うものだ正直いってこれって国語か？と言うレベルで中には摩天楼この読み仮名とレベルを書けと言う問題があったりして笑えた。次に算数主にライフ計算と確立の簡単な問題が中心だった。正直コインの表裏の出る確率とかはまだわかったけどサイコロの１と６が出る確率を求めスナイプストーカーの有用性について答えなさいとかドンだけだと思った、理科は一般的に小学校でやるレベルで安心したのもつかの間、社会はほぼエジプトの歴史とＭ＆Ｗの歴史についての問題ばかり遊びでＱ初代デュエルキングはだれ？と言う問題にお兄ちゃん！！と書いたのは良い思い出だ。実技は自分のデュエルディスクを使ってお兄ちゃんとデュエルをし続けたちなみにデッキはこっちに持ってくる予定のアイテムの中に入ってたデッキではなくバトルシティールールにあわせた（ちなみに現在もその禁止制限）当時の自分が使っていたと思われるデッキで代償除去ガジェのようなものだった（ちなみに主力はストロングホールドだったり）お兄ちゃんは普通のマジシャンズデッキで戦績は２５勝４２敗だった（開闢がマジで鬼畜）早く自分のデッキが使いたいな。と思っていたら双六じいちゃんから孤児院にいたときに持ってた荷物の箱を預かってあけてみたら自分のデッキが入っていた。ちなみにそのデッキはいまは秘密だ。そんなこんなでいまは試験会場にいるのだが、どこかからは「兄さんたちには恥をかかせないオレはエリートになるんだ！」とか「兄さんと同じ学校にうけるのかこれから恥ずかしい思いをしなくちゃいけないのか・・・」とか「万条目さんあなたならエリートになれますよ！！」とか言ってる声が聞こえるけど気にしない・・・気にしちゃ負けだ・・・何はともあれ試験が始まった

Ｓｉｄｅ　ｅｎｄ　遊二郎

Ｓｉｄｅ　万条目

おれは万条目財閥の跡取り3男の万条目　純だ・・・って誰に説明してるんだ！！集中集中！おれはこの中で一番にならなくてはいけないのに・・・ただでさえ今回はデュエルキング武藤兄弟の片割れ武藤　遊二郎がいるのにこんなことで気を散らせていたら絶対に1番なんてとれない！！・・・ふふふ完璧だ・・・完璧な状態で終わったぞ！！コレなら1番だ間違いない！！そのときふと顔を上げると右前に金髪ロングのかわいい子が・・・よし・・・あのこも一緒に受かれと念じておこう！！大丈夫だ！！絶対に。

Ｓｉｄｅ　ｅｎｄ　万条目

Ｓｉｄｅ　明日香

今ものすごい寒気がした気がする・・・風邪かしら？まあいいわといちゃいましょう。

Ｓｉｄｅ　ｅｎｄ　明日香

Ｓｉｄｅ　遊二郎

取りあえず全科目が終わって昼休憩になった（と言っても１３時ごろ）それで午後から実技と体育らしいんだけど午前の点数がいい順に始めていくらしい・・・って言うかＫＣ社ＳＵＧＥＥＥＥＥテストの採点まで全部コンピュータで一瞬でできるとかマジでキチガイだろ筆記なのに。放送で一回集められて札を渡された時にそう説明されたけどコレはほんとに早いと思う。ちなみに午後の試験の番号は１番だったまあ現実では一度大学でてるからと言うのもあるし１ヶ月あればＯＣＧで鍛えた知識と社長知識で満点くらいはねら（ｒｙ

そして体育だけど何でテニス？コレはわけがわからないぞ？と思い

つつ取りあえずラリーする。
そして実技試験に入った正直言ってガジェでいいかこの場は。
「受験番号１番！！デュエルリングに降りてきなさい！！」
おっと俺が呼ばれたみたいだ。
「はい！！受験番号１番武藤　遊二郎行きます！！」
周りで”おいおいあれがデュエルキングの弟だぜ”とか”あの試験管かわいそう”とか”バトルシティーでの実力見せてもらおう”とか”俺様を差し置いて１番とか許せん！！”とかいろいろ（最後のはたぶん万（ｒｙ）聞こえてきたけどむしむし・・・
「それじゃあいつもどおり気楽にきてくれよ一応先行はもらっていいか？」
「はいどうぞお好きに」
「じゃあ行くぞ」
「「デュエル！！」」
試験管ＬＰ４０００／遊二郎ＬＰ４０００
ソリッドヴィジョンシステムが展開される
「私のターン、ドロー！！」
「手札からマジックカード増援発動！！デッキから切り込み隊長を

手札に加える！！」

「さらにマジックカード連合軍発動！！このかーどは・・・」

「効果は知っているので説明は不要です先生！！」

「おっとコレは失礼では続きだ切り込み隊長召喚し効果を発動！！手札から新たに切り込み隊長を召喚！これで切り込みロックが完成だ！ターン終了！！」

さすが試験管やることがちがうねえ（笑）まあ気長に・・・おっとこの手札じゃあ無理か・・・

「俺のターン！！ドロー！！」

「手札からマジックカードライトニングボルテクス発動！！」

「ぬう、なかなかやりますねでも私はまだダメージを受けていないのでこのターンで終わりにはならないでしょうね」

「いや・・・たぶん終わります・・手札からマジックカード死者転生発動！手札を1枚捨て墓地からレッドガジェットを手札に加えますそしてそのまま召喚！！レッドの効果発動！！手札にイエローを加えます。そしてマジックカードデュアルサモン発動！！イエローを2度目の通常召喚で召喚し効果発動！！手札にグリーンを加えますそしてバトルレッドとイエローで総攻撃そのときに手札の速攻魔法リミッター解除発動！！エンドフェイズまで攻撃力を2倍にします！！いっけえええええ！！」

「え？ちょっ！！まって・・・何もないけどーーーーーー！！！」

試験管ＬＰ４０００→１４００→－１０００

「ありがとうございました・・・」

よし！！これで入学かくていだあとは帰るだけだな・・・おや？

次は万条目みたいだ

「ヘルバーナーで攻撃！！」

「うあーーーー！！」

試験管ＬＰ１１００→－１７００

「ありがとうございました・・・」

まずまずだな取りあえずはヘルデッキみた・・・・ん？こっちに近寄ってきた！！

「おい、で武藤兄弟弟！！」

「俺になんか用？」

「ああ・・・まだ完全に負けたわけじゃないからな！！！おぼえてろよー！！」

とかいって走り去っていった何がしたかったんだろう？

Ｓｉｄｅ　ｅｎｄ　遊二郎

「ふふ・・・面白そうなやつ見つけた・・・おっと私の番か行かないと・・・」

こんなつぶやきがあったことをまだ遊二郎が知る由もなかったコレから先なにがまちうけているのか？

第一章中等部編～波乱の試験～（後書き）

取りあえずテンプレっぽく1キルさせてみましたｗｗｗ
うん代償ガジェで1キルしかもマシンナーズ使えないだと本当に1キル方法が悩みましたでも・・・デュアルサモンくらいいいですよね？
では次回もよろしくお願いします！！

～闇　前編～（前書き）

遊二郎のメインデッキが明らかに！！
それでは本編をどうぞ！！

8月9日修正

～闇　前編～

これは、入学式まであと2週間と迫った夏の話

Ｓｉｄｅ　遊二郎

日本にある学校だから試験は3月にあるのに、普通の学校とは違いＤＡは新学期が9月と言うこともあり約6ヶ月も暇していた。その間遊戯は大学に行き俺は昼間の間カードショップやデュエル場をめぐりいろいろなやつらとデュエルして経験を稼いでいた。やっぱり最初はＬＰ４０００や表側守備表示での召喚には戸惑ったがいまではそれが当たり前になってきたのがうれしいのやら悲しいのやらと言った感じである。（相手の墓地が確認できないのも痛いんだよな。）

「と言うことで、今日もデュエル場にいきますか・・・」

そういって階段を降り”亀のゲームショップ”のフロアに出たところで異変に気が付いた！！

具体的に言うと

・周りにいつもいるはずの双六じいちゃんだったりお客だったりがいなくフードをかぶった人一人しかいないこと（ちなみに今は１３時）

・かばんの中に入れていたはずのデュエルディスクが腕にすでに装着されてデッキまで刺さっていること。

・時計を見てみたら時計の針が止まっていて動かないし（電池は一昨日変えた）外の時計も止まってしまっていること。

だった。

コレは明らかに罠だと感じながらフードの人物の横を通り抜けようと前に歩き始めるとフードの人物に止められてしまった。

「・・・」

無言でだがデュエルディスクを構えてくる・・・妙に殺気がある。

「あんたを倒したらもとに戻るのか？」

「・・・そうだ」

無言だったやつがしゃべって驚いた上に聞いてみても相手が男か女かがわからないすごく中性的な声だ

「だったら早く倒して町を・・・いや世界を元に戻してみせる。」

そういってデュエルディスクを構えた

「「デュエル！！」」

？？？ＬＰ４０００／遊二郎ＬＰ４０００

「・・・先行はもらう、ドロー！！私は強欲な壺を発動！！・・・さらに永続魔法神の居城ヴァルハラを発動！！・・・ヴァルハラの効果により私は大天使クリスティアを特殊召喚！さらにカードを２枚伏せてターンエンド！！」

ディスクには代償ガジェが刺しっぱなしになっていたはずだったか

ら少し安心してそれから手札を覗き込んだ。

「え”・・・・えええええええええええ！！！」

手札を見てまずはじめに来た5枚からこのデッキは代償ガジェではないことがわかった。しかも、このデッキはこの世界に自分が登録したアイテムのひとつではなかったと思ったんだが・・・

「・・・どうした？」

「いや、なんでもない・・・俺のターン！！」

何とかこの手札でクリスティアを消さないと！！どうしようもない！！

ちなみに今の手札は
死者蘇生・王宮のお触れ・おとーさん・カードガンナー・ドッペルウォーリア・ゴーズ

・・・コレでクリスをどうしろと（怒）コレだと1ターンしか・・・

「・・・だいじょうぶか？」

「ぅお・・・わりい大丈夫さ！！」

敵にまで心配されるなんて・・・そういえば1つきになってたことを聞いてみるか・・・

「なあ」

「・・・ん？」

「このデュエル負けたらどうなるんだ？」

「・・・この世界は崩壊しお前はこの仮想現実から出ることができなくなる・・・理解したか？」

「なん・・・だと・・・」

俺が現実に戻れなくなる上にこの世界が崩壊するだと！！

「ふざけるな！！！」

「・・・ふざけているつもりはないが？」

「おもしれーだったらスパッと倒してやるよ！！俺はモンスターを1枚セット、カードを1枚セットしてターンエンド！！！」

「・・・そのデッキで何ができる？私のターン！！天空の聖域を発動！！・・・そして奇跡の代行者アースを召喚！！効果を発動。デッキからマスターヒュペリオンを手札に加える！！さらにリバースカードオープン！！亜空間物質転送装置！！・・・」

「そこは待った！！！リバースカードオープン！！王宮のお触れ！！」

「甘い・・・リバースカードオープン・・・神罰！！」

「なに？！！」

「コレにより王宮のお触れは無効！！そして私の亜空間物質転送装置は守られる効果でクリスティアを1ターン除外！！さらに手札のヴィーナスを除外してマスターヒュペリオン特殊召喚！！そして・・・ワンフォーワンを発動！！手札のクリスティアを墓地に送りハネワタを特殊召喚！！マスターヒュペリオンの効果を発動！！墓地のクリスティアを除外しセットモンスターを破壊！！そしてバトル！！いっせいにハネワタからアタック！！」

「うぁ～～！！」

遊二郎ＬＰ４０００→３８００→２８００→１００

「だがしかし俺も手札の冥府の使者ゴーズの効果を発動！！ゴーズを特殊召喚しカイエントークンを生成」

「・・・エンドフェイズにクリスティアが戻ってくるターンエンドだ・・」

カイエントークンＡＴＫ２７００　ＤＥＦ２７００

「クッ・・・俺のターン！！」

何とか耐えられたけどこの手札でどうしろと・・・いや何とか勝って見せるこのドローにすべてがかかってるんだ！！

「ドローーーーーー！！！！！」

ｔｏ　ｂｅ　ｃｏｎｔｉｎｕｅ・・・

～闇　前編～（後書き）

前編はコレで終わりです1ターンでピンチの遊二郎君何とか次のドローでしのげるのか？・・・読みやすい展開でテンプレすぎるのかな・・・・

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n1681v/

RE: バース

2011年10月7日03時52分発行